

認知症公開講座の開催報告～その3～

3月23日に浮羽医師会とうきは市の共催で、「認知症をより良く生きる社会をつくろう」認知症になった‘私たち’からのメッセージというテーマで公開講座を開催しました。今月も若年性認知症当事者のインタビュー形式によるメッセージをお知らせします。

●問合せ うきは市地域包括支援センター TEL75-4105

50歳代で若年性認知症と診断された女性

医師に認知症と診断を受けて自宅に帰ってきた時

まず、自分が何をしたいのか。自分がどこに行ったら良いか。何をしたらいいのか。本当に怖かった。ここは家で間違いないのか……。うつむいたまま部屋の角の位置にずっと座り込んでいた。一步も外に出ることが出来ず、しばらく家にこもりきりでお先真っ暗、自分の人生はこれで終わったと思った。言葉で言おうとしても言葉が出なかった



現在の気持ち

永江さん（認知症コーディネーター・パートナー）と出会い、不安や悩みなど本音を打ち明けることができ、人生が変わった。今はもう一回、最後まで生きようと思っている。前にしていた美容の仕事をしたい。人の役に立ちたいと思っている。先日、塩崎厚生労働大臣が大牟田市の視察に来られた。私は大臣に励ましの言葉を送った。

ぼやきの会に入っている。認知症の当事者とパートナーで三池山登山した。山頂に着いたら空は水色、本当に水色、綺麗だった。みんなと一緒に登った。仲間と一緒に登り、私は一人ではないと思った。



インタビュー者 大谷るみ子氏のコメント

認知症になっても人に目を向ける事です。診断を受ける前も受けた後もその人の人生、**当事者の話を聴くことはとても大切**です。

インタビュー終了後は、サクソ奏者 深町宏氏によるリラクゼーションタイム。

「宇多田ヒカル」の「ファーストラブ」を奏でながら深町氏が会場の後方から入場され、癒しの時間が始まりました。ゆったりとしたサクソ演奏に会場が一体となり聞き入り、テンポのいい曲では全員手拍子で盛り上がりました。最後は会場全体に割れるような拍手で無事にすべての幕を閉じました。

～講演会参加者からの感想～

- ・ 認知症と診断された時の気持ちが痛いほど伝わってきました。
- ・ 改めて音楽と精神は深く関わっている事を実感しました。

大牟田市認知症コーディネーター

認知症の人とその家族への質の高い認知症ケアの提供と、保健・医療・福祉をはじめとする多様な社会資源を活用し、認知症の人の支援を通じたまちづくりの推進者の育成を目的とした大牟田市独自の養成研修を受講した人。